安心・安全な地域づくりのために

～市政懇談会「市長と語る会」開催～

七月十一日に竜丘公民館で「市長と語る会」が開催され住民の皆さん約百人が参加しました。牧野市長と丸山副市長から、今年度の市政経営の方針や予算の概要、定住自立圏構想の説明があり、その後、質疑や意見交換が行われました。

まず牧野市長から、今は、世界的経済危機や人口減少・少子高齢化、リニアを巡る動き等、地域を左右する正念場にあり、地域を挙げて持続可能な地域づくりに取り組むため「人材サイクルの構築」が最大の課題になります。そのため「経済自立度を高める多様な産業施策の推進」や「地育力による心豊かな人づくり」など五つの基本方針により市政経営にあたっていますと説明がありました。

続いて丸山副市長から、定住自立圏構想について説明がありました。少子高齢化により、地方は今まで以上に厳しい状況に置かれます。飯伊は生活圏が一体で、例えば、救急医療は、飯田市立病院の救急救命や休日夜間急患診療所など市が運営していますが、多くの町村住民も利用しています。このため市町村が役割分担し、それを共に支える仕組みとなるよう市と町村が協定を結び、安心して住み続けられる圏域を目指すと説明がありました。

質疑では、鈴岡城址公園について、「文化財の保存だけでなく、歴史的な公園として活用を」との投げかけに「文化財は活用しながら保全すべき。どう活かすか地域の皆さんと考えたい」と話されるなど、地区内の諸課題について意見交換がされました。

万全な安全対策を旧焼却場解体工事

今年度解体する旧焼却場についての説明会が、六月二十三日に桐林区、二十五日に竜丘地区で行われ、南信州広域連合、施工する飛島建設・神稲建設共同企業体、環境技術センターから説明がありました。

まず、施設に付着したダイオキシン類が外へ飛散しないよう建物をシートで囲い完全に密閉した上で、高圧の水で洗浄し、施設内のダイオキシン類を調査した上で、密閉を解いて建物を解体、来年二月までに整地するそうです。

ダイオキシン類濃度は法基準を遵守し、浮遊粒子状物質などは法基準よりも厳しい目標値で管理し、具体的には施工業者と広域連合、地元の三者で協定を締結し工事に着手するそうです。

会場から「ダイオキシン調査は時間がかかる。日々の異常はどう確かめるのか」との質問に、「ダイオキシン濃度とは直結していないが、浮遊粒子状物質の値は常に測定しており、ある程度は判別できる。ダイオキシン調査は施設洗浄後と、建物本体を壊す時に測定する。」と回答がありました。

この他、昨年、新焼却場の排ガス中のダイオキシン類濃度が地元協定値を上回ったことから、環境への影響を懸念する意見が多数あげられました。

協定も大切ですが、実際の作業や手順等にミスがないよう複数でチェックできる体制をとるなど万全な安全対策を望みます。

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田　☎22-5353

人口	6,826人
男子	3,339人
女子	3,487人
世帯数	2,261戸

(21年7月末現在)

ふるさと学習会「鈴岡城址公園ものがたり」

今回のふるさと学習会は、「鈴岡城址公園ものがたり」をテーマに、下平隆司さんを講師に迎え、三十名ほどの参加者で開催されました。

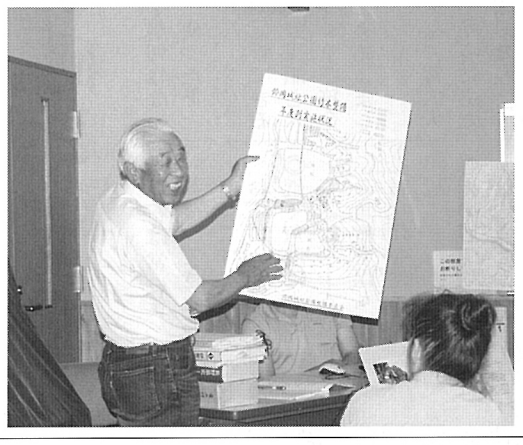
まずは、鈴岡城の歴史を学びました。鈴岡城は、一三五〇年ころ、小笠原宗政が築いたとされています。鈴岡城の歴史が書かれた「鈴岡城址之碑」や案内板が鈴岡公園には設置されています。

続いて、鈴岡城はどんなお城であったかを学びました。上空から見た鈴岡城の全貌。外堀や二の丸、本丸の状況。そして、平成十九年五月ころからの発掘作業の状況を、図と写真を使って分かりやすく教えていただきました。

続いて、鈴岡公園の整備や管理について学びました。鈴岡公園は、明治四十五年四月七日に開園され、まずは大正三年に「鈴岡公園」の石碑を建立しました。昭和五年には、二十周年記念の「鈴岡城址之碑」の建立を行い、昭和十年から、今では鈴岡公園の代表であるツツジの植栽が始まりました。そして、いよいよ二年後の平成二十三年に迫った開園百周年に向けての整備が、平成三年から進められてきました。整備前と整備後の写真を見せていただき、変化の違いに驚きました。

私たちはこの百年をどのように伝え、今後どのように守り発展させていかなければならないかが課題と感じました。

最後に、質疑応答も活発に行われ、大変良い学習会でした。次回は八月二十日に開催されますので、一緒に竜丘を学習しましょう。



介護予防フォローアップ事業が始まる

今年から、竜丘地区で介護予防フォローアップ事業がスタートしました。この事業は、飯田市が実施した特定高齢者介護予防事業に参加した方が、健康的な生活を維持できるようにということで始められました。

毎月二回ずつ竜丘公民館のサークル室に集まり、「介護予防サポーター」から運動や栄養指導を受けます。今年は、十二名の高齢者の皆さんが参加しています。

六月二十四日に、今年六回目の集まりがありました。この日の参加者は六名。竜丘地区のサポーターの皆さんが、会場を整えたり用具を準備したり受付をしたりして、この事業を支えています。

最初は、しりとりをして気持ちをほぐしてからストレッチ体操。指導者は、健康運動指導士の赤羽さん。手首、足首、そして首の運動。体を少しづつほぐしていきます。そして、唄を歌いながら指の運動。「なかなかうまくいかんな。」「あわてることないに。」楽しい会話が飛び交います。次は、ゴムボールを使った運動。腰の後ろに入れて「気持ちいいなあ。」の声。次は、お尻の下に入れて体を左右に動かしバランスをとる運動。思わず「ボールが割れてしまいそう。」の声。音楽が流れる温かな雰囲気の中で、運動機能の向上を目指して、皆さん頑張っていました。

お茶を飲んでおしゃべりすることも大切。毎回のメニューに入っているようです。

（福祉健康委員会　田添荘之）

藤森栄一賞　小林正春さん受賞

去る六月二十日に、小林正春さん（駄科）が第三十四回藤森栄一賞を受賞されました。藤森栄一賞とは、諏訪市出身の在野の考古学者、藤森栄一氏の功績にちなみ、全国の中から優れた民間の考古学研究者に贈られるものです。

伊那谷は、五世紀中頃から六世紀の前方後円墳が多く、全国一を誇る馬具や埋葬馬の出土で注目される古墳が数多くあります。小林さんは、長年飯田市教育委員会職員として、その調査研究と遺跡の保護に携われた功績が認められ受賞されました。選考委員会において、伊那谷の歴史と文化の研究を「伊那谷学」と位置づけ主唱・実践してきたことは、小林さんの研究業績や成果を象徴するもので、地域に根ざした考古学実践の精神は、藤森栄一を記念する本賞の受賞者に相応しいと評価されました。

七月十二日に受賞を記念して「イナの古墳と馬」と題し、小林さんの特別講演が美術博物館で行われました。松尾や上郷の古墳からは馬具が出土しますが、竜丘の古墳からは出土の例がありません。ヤマト王権そして朝鮮半島との関わりをイナの古墳と馬から考えることができるとの話しに、考古学の面白さを垣間見た気がしました。

ヤブ蚊

先日、第五十九回〝社会を明るくする運動〟公開ケース研究会が行われました。これは、少年が傷害事件を起こし、その事件概要、動機、性格、家族構成、生育歴などが載ったケースを各分散会で話し合い、考えるものです。答えがあるわけではなく、参加者一人一人の主観で意見を出し合いながら進めました。最後のまとめ報告の際に、子育ては、「家庭」「学校」「地域」が連携していく事が大切であると報告されました。

小学校で「音楽会」が行われました。今年は、子どもの生活リズムを優先して、金曜日開催となり、内容は各学年、学級によって個性あるものでした。しっかり練習をし、先生方が一人一人の生徒に愛情を持って接してくれている事が、肌で感じられました。指揮の体勢になると、観客席からは先生の表情はわかりませんが、「笑顔が無いよ」「緊張するな」の様なしぐさが子どもたちに送られたり、演奏終了後、子どもたちに小さな拍手を送ったり、すれちがいざまに、肩を「ポン」と叩いたりと、「今まで良く頑張ったね」と子どもたちに伝えている姿でした。この様な環境に子どもたちがいれば、大丈夫だと思えました。又、地域でも、「放課後こども教室」で上下間の子どもの交流を図ったりしています。

子育ての一番の基礎はやはり家庭です。「子どもは親の背中を見て育つ」と言われます。子どもにとって親は手本なのです。「あなたは子どもの手本になってますか」と問われると考えてしまいます。日々、子どもと共に勉強の毎日です。

古墳時代にタイムスリップ

古墳公園イベント開催

五月三十一日、桐林の塚原二子塚古墳周辺で、親子連れなどを対象にして、ハニワの野焼きや勾玉づくりなどのイベントが行われました。訪れた子どもたちは古墳時代にタイムスリップして楽しみました。

昨年二月に初めて開催して好評だった竜丘古墳まつり。公民館の社会委員会では、今年度の目玉事業として、五月十七日に二回目の古墳まつりを開催すべく準備を進めてきました。しかし、あいにくの雨のため中止となってしまったことから、子どもたちにその雰囲気を少しでも楽しんでもらおうと、規模を縮小してこのイベントを行いました。

開会の後、まず参加者はきれいに草刈りがされた塚原二子塚古墳にのぼり一帯を望みました。そこで古墳を考える会の下平隆司さんから、当時竜丘はどんなところだったのか、どうしてたくさんの古墳が造られたのかなどの話をお聞きしました。

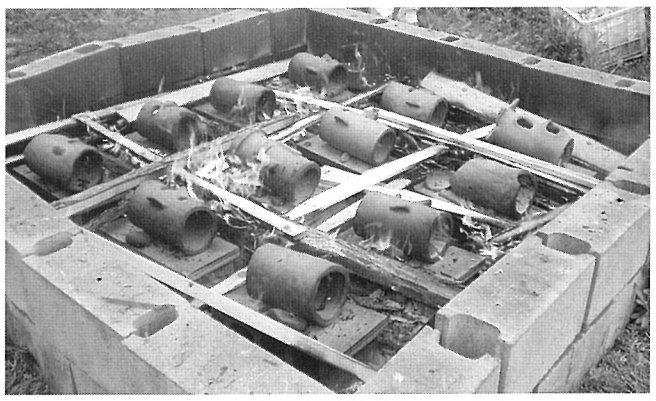
この日、塚原二子塚古墳のそばには、ブロックを積み上げた野焼き用の窯が設けられ、ハニワの野焼きが行われました。ハニワは、瓦用の粘土を使い、公民館の役員の皆さんなどがそれをこね、円筒形にして目や鼻をつけたものです。帽子をかぶったハニワ、カッパに似せたハニワなど合計で十二体を野焼きしました。

竜丘小学校の宮坂校長先生の指導を受けながら、試行錯誤をしながらの野焼きでしたが、すべてがきれいに焼き上がりました。一つ一つの風合いが異なり素晴らしい出来映えとなりました。このハニワは、現在竜丘公民館のロビーに飾られていますので、公民館にお越しの際にはぜひご覧いただきたいと思います。

このほかのイベントとしては、ろう石という石を使って勾玉のアクセサリーを作りました。割り箸にサンドペーパーを巻き付けたやすりで、少しずつ自分の思う形に石を削りました。機械を使えばアッという間にできあがってしまいますが、手間をかけて作ることで愛着のわく作品ができ上がりました。首にかけられた一つ一つの勾玉だけでなく、子どもたちの満足げな笑顔が輝いていました。

また、木の棒にひもを巻き付けて回転させ、摩擦熱で火をおこすという原始的な火おこし体験も行われました。訪れた子どもたちは何とかして火をおこそうと夢中になって木の棒を回していました。

今年度は開催できなかった「竜丘古墳まつり」ですが、今回の経験を生かして来年度は盛大に開催できることと期待しています。



上手に焼けるかな

額に汗して花畑整備 二子塚に花を！

この四月〝竜丘を花でいっぱいにしよう〟という仲間が八人で木下陸奥さんのハウスに集まりました。木下さんの指導のもと、サルビア、アゲラダム、マリーゴールドの種蒔きをし、芽の成長に合わせポットへの植え付けをしました。さて、どこへ植えようかと相談。昨年から地区で話題になっている二子塚がどうかということになり、今村豊秋地域づくり委員長さんに相談、協力をいただき六月に土作りをして植え付けをしました。

想像してた以上に大変でした。荒地だったため、その後の手入れも大変です。朝五時半から水やり、草取りの作業に汗を流しながらも、何事にも前向きな仲間ゆえ、笑い声が絶えず、楽しみながら花畑の手入れに一生懸命です。その成果もあり現在美しい花が咲き、二子塚も一段と映えています。

二子塚の周辺と通行する人々の心のいやしとなり、竜丘の二子塚を再認識されることを望みながら、これからも頑張りたいと思います。

みんなで作るきれいな竜丘 竜丘クリーン運動行われる

五月三十一日「ゴミゼロ運動」に引き続いて環境委員会初の試みとして「竜丘クリーン運動」を、各区担当役員約七十名が集まり、実施しました。

今回は、駄科区の鈴岡公園下の駄科大瀬木線周辺を行いました。以前から不法投棄が目立つ場所として問題になっていたため、この運動で美化に努め、通行するドライバーにも啓発する機会としました。沿道に「みんなで作るきれいな竜丘」のスローガンのぼり旗を掲げ、環境委員会の青色ジャケットを着用して草むらや川底に落ちているゴミを拾い集めました。用意したビニール袋は、たちまち満杯になり「車で通り過ぎれば気付かないが、拾ってみるとかなりの量が落ちている」との声も聞かれました。ゴミの種類は、弁当の空き容器やペットボトル、あき缶、ビニール袋等が中心で、生活用品が多く目立ちました。

竜丘地区内には他にも、「ほっき」地籍や時又中村線などの不法投棄が目立つ場所があり、地域で問題になっています。今後当委員会では、この運動を継続してポイ捨てをしない環境づくりを目指して行きたいと話し合っています。ポイ捨ては社会のモラルに反します。心ないポイ捨てが地域に大変な迷惑をかけている実態を知ってもらうためにも運動を継続して行きたいと思います。

運動実施の翌日、車で通って本当に残念に思いました。道路わきに弁当の空容器や空カンがもう捨てられていました。これが実態なんですね？

（環境委員会　今村　健）

白熱した戦い 繰り広げられる！

夏季スポーツ大会開催

竜丘・夏のスポーツの祭典、「夏季スポーツ大会」が、七月五日に、小学校とサンヒルズの二会場で、ペタンクとソフトボールの二種目の競技が繰り広げられました。

当日は、梅雨の合間となり、心配された天候も、夏の暑い日差しとなり、サンヒルズの会場では、木下公民館長の始球式で大会の幕が開きました。

ソフトボールの試合には各分館対抗の中に、女子ソフトボールチームの「竜丘レディース」を加えての熱い戦いが繰り広げられました。親睦が目的とわかっていても、いざ試合が始まると、つい力も入って、熱の入ったプレーとなり、会場のあちらこちらで大きな歓声があがっていました。竜丘レディースの活躍にも注目が集まり会場をわかせていました。

小学校の会場で行われたペタンクでは、校庭に作られたコートの中で始めにルールの講習が行われました。ペタンクは、三名が一チームで戦うチーム対抗種目です。始めに投げたビュットと呼ばれる的に鉄球を投げて、より近くに多くの鉄球を集める競技です。

試合では、大きなコートの中で、数センチを競う程に白熱したゲームもあり、コート内の選手たちの大きな声が響きわたっていました。年齢層も幅広くでき、世代を越えた交流のできるスポーツでした。

各試合の結果は、次のとおりです。

（ソフトボール）
優勝「時又」二位「駄科」

（ペタンク）
優勝「駄科」
二位「長野原・時又」

夏季スポーツ大会も回を重ね、竜丘の恒例行事となり、来年こそはと雪辱を誓う声も聞かれました。

桐林体育部長の選手宣誓

包丁研ぎ講習会

公民館の包丁が切れないとの声があり、使ったあと自分たちで砥いで、いつでも切れる状態で保管できるようにしようと公民館と六月七日に地域づくり総務企画委員会共催で実施しました。

講師には下久堅の宮内大工さん他二名が指導にあたっていただきました。

◎砥石には種類があり番号がついていることを知りました。荒砥・仕上砥があり八百～千位の番号のものでまず砥ぐ。

◎砥石は常にまっ平らに。へぞってきたらブロック等でこすって平らにしておく。

◎砥ぐ角度は十円玉二枚、十五度の角度を保ち砥石全体を使って砥ぐ。

◎指の腹で切れ具合をたしかめて砥ぐ。

◎最後は仕上砥で両側を軽く二～三回軽くゆっくり砥ぐ。

◎片刃・両刃とあるので、片刃は片側のみ、両刃は両側を。

終わってからの感想

砥石を買いに行きたいが選び方を教えて下さい。地域やグループで伝達講習を開きましょうと出席者からの声もあり好評の講習会でした。